

## (6) アユ種苗生産事業

池田 茂則(福井県漁業協同組合連合会派遣職員)  
前田 英章

### 2 材料および方法

#### 3) 種苗生産

##### (1) 発眼卵～0.5g (栽培漁業センター)

発眼卵が付着したシュロは、10本程度を束ね、湿らしたスポンジと共に760×950mmのポリ袋に詰めて密封し、令和4年10月7日から18日にかけて合計646.5万粒を栽培漁業センターに移送した。

栽培漁業センターでは、飼育水槽(RC製FRPコーティング八角形50m<sup>3</sup>水槽8面に淡水を満たした状態で用意し、卵到着後直ちに各水槽収容卵数76～84万粒となるよう、シュロを垂下収容した。なお、ふ化率は85.0%と推定した。

飼育水は、ふ化日から2.4L/minの海水を注水し塩分濃度を上昇させた。また、塩分濃度が地先水温と等しくなってきたら、飼育魚の成長に伴い18～250L/minの範囲で海水を注水した。

餌料には、ふ化後45日目までは、S型シオミズツボムシ(以下ワムシという)を、ふ化後15日目から出荷までは、配合飼料を2社(日清・フィドワ)混合したものを使用した。分槽は日齢45～63日目に行い、各水槽を2面に拡大した。分槽時には、自動給餌器で配合飼料を少量ずつ撒き、集まった種苗を内径50mmのホースで別の水槽に移槽した。また、日齢25日目頃から水槽の底掃除をサイフォンで適宜行った。

種苗サイズのバラツキを軽減するため、出荷時に120径のモジ網を使用して選別を実施した。

### 3 結果および考察

#### 3) 種苗生産

##### (1) 発眼卵～0.5g (栽培漁業センター)

##### ア 収容および飼育

栽培漁業センターでの収容結果を表3に示した。令和4年10月7日から18日にかけて搬入した発眼卵は、収容後4～5日目からふ化が始まり、ほぼふ化が終了した10月13日から23日をふ化日とした。ふ化後は大きな初期減耗は見られず、比較的順調な飼育経過であり、分槽を行った後も順調な成長を示した。

表3 収容結果

生産回次	採卵月日	収容月日	収容卵数 (万粒)	ふ化月日	ふ化尾数 (万尾)	水槽数	収容密度 (万尾/t)	ふ化率 (%)
1	9月29日	10月7日	162.8	10月13.14日	138.5	2	1.39	85.0
2	10月3日	10月11日	76.6	10月18日	65.1	1	1.30	85.0
3	10月7.8日	10月18日	407.1	10月22.23日	342.8	5	1.37	85.0
合計			646.5		546.4	8		(推定)

表4 給餌期間および給餌量

回次	ワムシ		配合飼料	
	給餌期間 (日令)	給餌量 (億個体)	給餌期間 (日令)	給餌量 (kg)
1	0～45	494	15～148	360
2	0～45	218	15～133	167
3	0～45	1,234	15～117	641
合計		1,946		1,168

生産に要した生物餌料および配合飼料の給餌量を表4に示した。飼育期間中の総給餌量は、S型ワムシ1,946億個体、配合飼料1,168kgであった。

飼育水温は、10.4～20.4℃の範囲で推移した。

##### イ 生産結果

栽培漁業センターでの種苗生産の結果を表5に示した。発眼卵646.5万粒を収容し、ふ化仔魚546.4万尾を

得て飼育を開始した。その結果、取り上げまでの飼育期間は、110～148 日間で、総取り上げ尾数は 214.7 万尾であり、この間の平均生残率は 39.3% (32.1～44.5%) であった。また、総取り上げ重量は 1,326 kg であった。

表5 種苗生産結果

回次	収容水槽	種苗系統	収容尾数 (万尾)	分槽後 水槽数	取上げ 月日	飼育日数 (日間)	取上尾数 (万尾)	全長 (mm)	体重 (mg)	生残率 (%)
1	F-25	F2	69.3	2	2/21～3/10	99～112	25.8	54.3	0.62	37.2
	F-26	F2	69.2	2	2/21～3/10	98	22.2	56.3	0.64	32.1
2	F-27	F2	65.1	2	2/28	103	26.6	56.1	0.65	40.9
3	F-5	F1	68.4	2	2/9～2/14	111～117	26.2	55.5	0.60	38.3
	F-6	F1	68.8	2	2/9～2/15	111～118	30.6	54.7	0.60	44.5
	F-7	F1	68.7	2	2/9～2/16	111～119	25.5	55.0	0.60	37.1
	F-8	F1	68.7	2	2/10～2/17	111～118	27.5	55.0	0.60	40.0
	F-28	F1	68.2	2	2/17	112～139	30.3	55.9	0.62	44.4
合計	8		546.4	16			214.7	55.6	0.62	39.3

## ウ 出荷

出荷結果を表6に示した。日野川漁協へは令和5年2月9日から10日にかけて計65.8万尾出荷した。九頭竜川中部漁協へは2月14日から17日にかけて計67.0万尾出荷した。内水面総合センターへは2月21日から28日にかけて計51.2万尾出荷した。合計184.0万尾を中間育成用種苗として出荷した。

表6 出荷結果

出荷先	出荷月日	出荷尾数 (万尾)	出荷重量 (kg)	平均体重 (g)	平均全長 (mm)
日野川漁協	2月9日	33.0	199.2	0.60	55.1
	2月10日	32.8	196.8	0.60	54.8
	計	65.8	396.0	0.60	55.0
九頭竜川中部漁協	2月14日	21.4	131.2	0.61	54.9
	2月16日	22.6	137.6	0.61	55.2
	2月17日	23.0	142.5	0.62	55.8
	計	67.0	411.3	0.61	55.3
内水面総合センター	2月21日	24.6	157.5	0.65	56.6
	2月28日	26.6	171.1	0.65	56.1
	計	51.2	328.6	0.65	56.4
	合計	184.0	1,135.9		